

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。〔20番 古畑浩一君登壇〕

○20番（古畑浩一君）

古畑浩一でございます。

これより通告書に従いまして一般質問を行わせていただきます。

1、糸魚川白嶺高校の学級減と人口対策について。

(1) 本年7月6日に示された平成28年度から2カ年の高等学校等再編整備計画案において糸魚川白嶺高校の現状4学級を3学級にすることが示されましたが、糸魚川白嶺高校は、地元就職率も高く、貴重な人材を輩出する地元密着した教育活動を行う地域貢献度の高い学校であります。現在糸魚川市では少子高齢化に歯止めをかけるべく計画案を策定中であり、同校の学級減は若者の地元定着に対しても著しい悪影響を及ぼすと考えますがいかがか。

(2) 現状を鑑みても、本年入試では糸魚川白嶺高校は倍率0.98倍であり、著しい生徒減とはなっておらず、昨年、学級減となった海洋高校は倍率1.14倍となっており定数を上回り、糸魚川白嶺高校が学級減となった場合、地元高校への進学が困難となる生徒数が今後50人を上回ることが予想されますがどうか。

(3) 学級が減らされることにより、部活や課外活動、新学科創設にも多大なる悪影響を及ぼすことが懸念され、魅力ある学校運営に支障を来すこととならないか。

(4) 糸魚川市には私立高校はなく、地元高の受入数が減少した場合、上越市や富山県等、市外の高校に地元の子供たちが流出することとなり、保護者の負担増や片道1時間程の通学による不便さを強いることとならないか。

(5) 進路指導も決定し受験準備の時期となっており、余りにも早急であり、子供たちの気持ちや将来を考えない一方的な計画案と考えるがどうか。

(6) 新潟県教育委員会に対して、単に人口動態の推移だけで判断することなく、地域の事情を勘案し、糸魚川白嶺高校の学級減の計画案を白紙に戻し、現行の学級数とすることを、強く求めるべきと考えるがどうか。

また、関連して以下の質問にもお答えください。

(7) 地方創生戦略プラン・人口ビジョンに対する影響はどうか。

(8) 8月19日、県教育委員会に行った要望内容と回答。

(9) 学校・保護者へはどう説明するのか。

(10) 県教育委員会と信頼関係は回復できたのか。

(11) 一連の不祥事や学校給食異物混入など、教育委員会の危機管理能力に疑問を持つが大丈夫なのか。

(12) 第三セクター鉄道移行後の通勤通学に支障はないか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

1点目から6点目までにつきましては、学級数の減による影響は議員のご指摘のとおり、生徒や保護者への負担増のほか、若者定着に対しても影響があるものと考えております。

したがいまして、県教育委員会に対しまして口頭ではありますが、学級減に対する遺憾の意を伝えてまいりました。

7点目につきましては、地方創生総合戦略では、教育環境の充実を掲げており、若者や女性、子育て世代などの移住や定住を促進するためには、影響があるものと考えております。

8点目につきましては、生徒数が減少していく中で、糸魚川白嶺高校の魅力ある学校づくりを進めていくことが重要であると考えており、糸魚川市固有の地域資源を活用した専門知識を学ぶ教育課程の創設への支援、また、広域からの生徒入学を視野に入れた魅力ある学校づくりを進めていただくよう要望したものであります。

県教育委員会からは、中長期高校再編整備計画の中で検討する旨の回答をいただいたところであります。

9点目につきましては、学校を通じて保護者、生徒へ進学の説明会を行ってまいります。

10点目につきましては、県教育委員会とは良好な関係が続いております。

11点目の一連の不祥事につきましては、市民の信頼を裏切る結果となってしまいましたことに対しまして重く受けとめており、教育委員会が一丸となって信頼回復、再発防止に取り組むよう要請してるところであります。

12点目につきましては、朝の通勤通学時に混雑している状況であるため、引き続き、えちごトキめき鉄道へ車両増設を要望いたしてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

それでは、これより2回目の質問をさせていただきたいと思います。

さて、これは私、本年7月6日に示されました突如の方針変更で、糸魚川白嶺高校が学級減にされると。どうしても納得できないというか、疑問が日に日に増していくんですよ。

そこで最初にお伺いいたしますが、なぜこんなに唐突に糸魚川白嶺高校の学級減の方針が示されたのか。その経緯について詳しくお聞かせをいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

平成28年、平成29年の高校再編整備計画の中では、従来は糸魚川白嶺高校は現状維持という方針で昨年度あったものが、唐突に急遽、7月の上旬に白嶺高校が1学級減になったというのは、誰も予測はしておりませんでしたし、後でお聞きしますと白嶺高校そのものも、その直前まで知り得ない情報であったということでもありますので、いまだにその理由については、私どもも承知できない状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

いくら何でも唐突過ぎる、早急過ぎる、突発過ぎる、これもちっと後ほどまた細かく聞かせていただきますが、人口動態については、将来推計の中でも厳しい数字を予想しておりますよね。そこで今回、戦略プランや人口ビジョンを制作してきたわけですが、この学級減については、こうしたビジョンの中で、本年度、学級減になるということは想定済みなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えします。

学級減については、想定しておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

いいですか。昨年示された方針案の変更、いわゆる今回、白嶺高校の学級減でありますけど、この方針変更が7月ですよ、そして最終決定が来月の10月、そして来年の3月には受験というスケジュールです。何度も申しますが、これはあまりにも早急であって、これが計画行政と言えるんでしょうか。県の都合もあるとは思いますが、糸魚川には糸魚川の行政計画というものがあると思うんですが、これは果たして計画行政と言えるんでしょうか、お答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

県の計画の変更について、それについてのコメントは私どもは持ってありませんが、議員と同じような感触は持っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

そこで市長におかれまして8月19日、県教育委員会に対して要望活動を行っていただいた。そこでその要望内容、これ私も入手したんですけど、きょうちょっと忘れてきましたんで、これ全文をちょっと朗読していただいけませんか。短い文書だったんで、そんなに時間はかからないと思うんですが、要望の内容につきまして、全文の朗読をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

暫時休憩します。

午後2時10分 休憩

午後2時10分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

○教育次長（竹之内 豊君）

それでは、読み上げます。

要望書

日頃、当市の教育行政に格別なご配慮を賜り厚くお礼申し上げます。

糸魚川市は、北は日本海に面し、南には活火山新潟焼山や3,000メートル級の北アルプスの山々を有しております。併せて、眼前に迫る岩山や清流姫川など美しい景観と自然の恵みが豊かで、文化遺産も数多くあることから、平成21年にユネスコが支援する「世界ジオパーク」に日本で初めて認定されています。

反面、複雑な地形と地質構造が、古来より地すべり、土砂崩落、土石流、地震・火山災害、雪崩など、多種多様な自然災害を繰り返し発生させている地域でもあります。

変動する大地を肌で感じながら、大地の成り立ちや自然災害の発生メカニズムを学ぶことは、防災を担う人材の育成に有効であり、糸魚川ジオパークはその絶好のフィールドであります。

また、その大地が生み出した景観、文化、歴史、糸魚川市固有のヒスイや食文化など、魅力的な観光資源が多く、観光・体験メニューの開発、地域特産品開発など、観光コーディネーターとしての専門的知識、スキル等を身に付けるにも最適な地であります。

これまで糸魚川白嶺高等学校は、総合学科校として、地域社会に貢献する人材を輩出してきておりますが、これらの地域資源を活用した専門知識を学ぶ教育課程を創設することにより、ふるさと糸魚川の未来を担う人材の育成、さらには広域からの生徒入学も期待できます。

つきましては、下記について特段のご配慮を賜りますよう要望いたします。

記

1 糸魚川白嶺高等学校の、地域の特色を生かした教育課程の創設に支援いただきたい。

2 広域からの生徒入学を視野に入れた魅力ある学校づくりを進めていただきたい。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これ全文朗読していただきました。ありがとうございました。

やはりどうしても、私、これ読んだときにファーストインスピレーションで感じたのは、これは何の要望かと思いました。

市長、白嶺高校の学級減、もしくは現状維持を求める要望書ではなかったんでしょうか。なぜ学級減、あるいは現状維持については、1行も明記されていないんでしょうか、お聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

市といたしましても、やはり2年前だったかと思います。非常に少子化にこれから入っていく状況の中で、糸魚川市内に3つの高校は絶対必要だという中で、やはり個性、特徴をしっかり持っていくことが、魅力ある高校につながるんだらうということで、その旨をお願いに参っておったわけでありまして。

そういう中で、今回、こういう形になったわけでありまして、我々といたしましてもそういったこの条文につきましては、保護者、PTAと一体となって作成させていただいて、そして要望書になっておるわけでありまして。その辺のことで魅力ある学校をつくっていくことが、やはりまず一だということで、この要望をさせていただいて、そしてその中で、これに至った経過は、やはり学級数の減というのが大きい事柄であるので、ぜひとも要望させていただきたいという話をさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

当初、昨年策定されてきた県の計画案の中では、1クラス減は、上越総合技術高校でしたよね。それが地元の反対によって白紙撤回され、そのあおりを受けたような形で、糸魚川白嶺高校の学級減につながっていった。

さて、猛烈な反対行動を起こした上越地区でありますけれども、ここに昨年、2014年10月10日の新聞記事があります。同窓会、PTAと上越3市、学級維持を求め要望。関係者が9日、見直しを求めて県教育委員会に要望書を手渡した。上越3市選出の県会議員7人も同席をした。要

望書は上越市、妙高市、糸魚川市の各市長、商工会議所、選出の県議らが連盟して出していると。
市長、何で上越総合技術高校のときには、しっかりとした学級維持を求める要望書を提出しておきながら、地元の糸魚川白嶺高校のときには学級減反対、もしくは現状維持を要望するということができなかったんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

上越総合技術高校の場合には、要望書を、ぜひ一緒に署名してほしいということで来たことで、我々といたしましても協力させていただきました。

今回もやはり白嶺高校の後援会、PTAの皆さんと要望に来られて、そういう話になって、私はそれに同調させていただいたわけであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

市長は同調した。もともと今回の要望書の原案は、誰が作成したんですか、原案ですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

今、私が読み上げた要望のもとになっていることは、白嶺高等学校の校長、同窓会長等が市長と面談した折に話し合われたこと。それをこういう内容で要望しようという話し合いのもとに、私もこども課でたたき台をつくり、それぞれの皆さんから確認をしていただきました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

私の聞いた話とちょっと違いますけどね。今、話が出た中でも同窓会長や、また、同席された新たな県議会議員は口頭でしっかり反対したという。その回答については県教育委員会では、どのような回答をされてきましたか。それから市長は口頭で、どのような伝え方で、この学級減に対して反対をされたんですか、お聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり学級減となるのは非常に地域といたしましても不安や、生徒に対しては非常にやはり影響が出るので、ぜひともこういう形で我々は反対させていただきますという形では言いましたし、そして、それにはやはり魅力ある高等学校をつくってほしいという要望を強くさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

それは市長が、ご自分の言われたことですね。じゃあ同窓会ですとか県議は、どのように言われたのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

当日の私の拙いメモでございますが、7月7日の報道を見て戦慄が走ったと。その後、同窓会やPTAの会の中にも非常に要望をするべきではないかという声が高まってきた。その後、いろんな県からの説明も聞き落ちついてきたところであるが、なぜここで白嶺高校が減だという声は今もあると。市とも相談の上、きょうは要望に参ったということを同窓会長はおっしゃられました。

それに対する県の回答では、確かに当初の計画ではなかったけれども、生徒数の減少はいかんともしがたく、ここ糸魚川だけではなく他の地域の学校でも定員減とせざるを得なかったということであり、要望書に書いてある趣旨については、それに沿うよう検討したいというふうな回答をいただいたところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

県教育委員会の回答は、要望書に書いてある要望事項につきましては、今後、検討していきたいという答弁だったんだね。しかし、今回、糸魚川市が出した要望書には、学級維持と学級減については1行も書いてない。これは糸魚川市は、糸魚川白嶺高校の学級減を認めたということになりやせんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

要望に行く前段の協議の中でも、議員言われるように7月という非常にもうタイムスケジュールのない中での県教委の発表は、これを白紙撤回ということを求めて要望したとしても、非常に難しいであろうということでの要望活動を計画したわけでございますので、これを認める、認めないではなくて、実のある糸魚川地域の声を聞いていただくための要望ということで、そのような要望書

にまとめたというのが流れでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

先ほどの答弁のように、白嶺高校が1クラス40人減らされること自体、糸魚川市全体に大きな影を落としていく。これはやはり形としても非常に厳しいことだと思うんですよ。単に人口の推移だけを基準とされていった場合、昨年は海洋高校、ことしが白嶺高校、じゃあ次は糸魚川高校ということになる。県の方針でどんどん削られていってしまったら、糸魚川市のような周辺に、県内の自治体がなくて距離的な不利なところは、減らされていく一方じゃありませんか。

それから今後の子供たちの数等で勘案された結果、白嶺高校とされたということなんですけど、ことしの卒業生と来年の卒業生を比較した場合どうなりますか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

平成28年3月末の市内の中学校を卒業する生徒の数が383名、平成29年度は一時的にふえまして395名、その翌年が357名に減少するというような数字でございます。

○20番（古畑浩一君）

ことし、平成26年度を言ってない。

○議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

午後2時23分 休憩

午後2時23分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

失礼いたしました。

369名であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20番（古畑浩一君）

すらっといかなかったから、ちょっと皆さんわかりにくかったと思うけれど、平成26年度の市内4中学校の卒業生は369人ですよ。これに対して来年の3月、383人、再来年度は395人、減るどころかふえているんですよ、増加傾向なんだ。

それから入試の倍率にしてみたって、過去5年間を平均した場合、糸魚川高校で0.956倍、白嶺高校で0.954倍、それは1つの指針となる1.1倍から比べれば、満たしてないと言われれば満たしてませんが、わずかな差ですよ、このわずかな差。そして少なくとも今回の計画の中身となる2カ年の子供の数は、減少じゃなくて増加するんですよ。何で減らされんならんのですか。何でそれに対して教育委員会として、糸魚川市の子供たちを守る市長の立場として断固抗議しないんですか。しかも7月策定して10月決定なんて、わずか3カ月ですよ。こんな乱暴なやり方、誰が見てもおかしいじゃないですか。市のトップとして、断固抗議するべきだと私は思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々としては、やはり学級数もさることながら、いかにこの糸魚川で3つの高校を守るかということが、やはり一番最大に思っておるわけでありまして、そういったところへ早く進めていかなくちゃいけないということで、我々是对応していきたいと考えてる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20番（古畑浩一君）

それではそうした魅力ある学校づくりということなんですけど、これは3番のほうに移りますけども、それでは世界ジオパーク、この地理に特化した学科というものを新設したとして、生徒は本当に集まってくるんですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

決してジオパークに特化したということではなくて、やはり糸魚川の魅力をどうやって出していくかということが大事だろうと。そういう中には、こういうものもありますという1つの例に出してるわけでありまして、それをやはり早目に見つけなければ私はいけないだろうと思っております。海洋高校みたいに、やはりしっかりとした方針をしっかり見つけることが大事だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

いいですか。例えば白嶺高校に新学科をつくってほしいという要望はいろいろあります。もうはっきり言えば、前の商工時代のほうがいいと。商業簿記や工業に関するさまざまな技術や資格が取れる、こういったほうがいいと。それから市長が言うように、観光系のビジネス等の資格が取れるような学科がいい。じゃあ今回要望した新設学科の具体的な科目をどのようにして決めて、どのようにして要望していくのか、この辺の具体案はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

それを早急にやはり見つけなくちゃいけないだろう。今、議員ご指摘の点も私も伺ってるわけでありまして、そういうものをしっかり早目に見つけて、そしてそれを位置づけすることが大事だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

早目に急いで、そのとおりです。しかし、今の段階ではないですよ。ないんですよ。来年の3月に学級が減らされると言ってるのに、今どんな新設の学科をつくるかって考えてる暇がないんです。ここはさっきも言ってるように、今後2カ年の計画の策定なんです。

先ほど竹之内次長にもお話をいただきましたが、これは悲しいことでありますけれども、2年後、いわゆる3年目の卒業生については、中学校の卒業生ですよ。先ほどご指導いただきましたとおり、今の1年生になりますね。ここが357人、大きく減らします。このときなら私はしょうがないと思うんですよ。

いわば市長、この2年間で踏ん張りどきなんですよ。何とか現状維持、これを教育委員会にお願いして、その2年間の中で市長が要望した魅力ある学校づくりや、どのような糸魚川の特徴にある、また、糸魚川が求める人材をどうつくっていける魅力ある学級をつくるかを、2年間かけてしっかりとリサーチして、教育委員会にも学級を減らすんなら、こういう魅力ある新しい学科をつくってください、交換条件でいきやどうですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もやはりそういう危機意識を持っていたからこそ、2年前から働きかけをしてきました。しか

+

し、学校としては何も立ち上げてないのが実情でございます。

そういう中で私はこういう形になったということで、非常に私自身も本当にさらに危機意識を持った中で、今回対応させてもらったわけであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

市長、今回は批判じゃなくて強烈な応援コールだと思って、もう1回、闘志に火をつけてほしいと思うんです。

それから魅力ある学校づくりというのは新学科や、何て言いましょうかね、さまざまなカリキュラムだけではない。それだけが高校生活の全てじゃありませんよね。スポーツや文化活動、ボランティアなど多種多様な活動をする機会というのは、私は必要だと思う。そのためには生徒数が多ければ多いほどよいんですよ。40人も減らされていってしまったら、部活として成り立たないところがたくさん出るんです。

例として言えば、糸魚川白嶺高校野球部は、昨年の秋季大会は部員不足で海洋高校との連合チームで出場。ことし春の大会への単独出場は絶望的な状態だったんです。しかし、地元高校を盛り上げようとする多くの中学生たちが、新入部員として15名も入ってくれたことによって、伝統校の野球部が存続することができたんです。こういう地元愛が芽生えているときに40人、1クラスの学級減は大きな弊害となるのではないのでしょうか。この辺をいかがお考えでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

私も今、第1回目でお答えしたように、いろんな面で影響が出るということは承知ですし、今、議員ご指摘のとおり、そういったことにも影響が出るものと捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

先ほど市長は2年前から、魅力ある新しい学科の新設ということを要望されてきた。糸魚川は全くそういう声は聞かれませんでした。今回、高田に医療系の子供たちのための専門コースとして、メディカルコースができましたよね。私、これすごく魅力的な学科だと思うんですよ。これは今度、糸魚川高校を志望されるような方々が、それなら高田高校へ行きたいという、今度、そういう流れになっていきませんか。新しくて魅力的なもの、医療従事者の資格が取れるような。進学校としても現在、今厳しいのは、はっきり言って白嶺高校より糸魚川高校ですよ、倍率の関係からいっても、市長の母校です。進学校だって今、生徒の取り合いなんですよ。白嶺高校だけではない、糸魚川高校等も新たな魅力ある学科、学級というのは、私はつくっていかなくちゃいけないと。これについていかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その旨、やはり学校のほうからも情報をいただいております。そういった形で、今、自分たちはどういう形に進んでいるのか、どういう方向に向かっているのかというのをやはり市内の学校から聞くわけですが、やはり前が見えない形では困るわけでありまして、自分たちはまだ見えてないけれども、こういう方向に進みますよ、こういう形でいきますよということで、今、いろんな面で活動しておるところは非常に我々も受けて、行政としても応援しやすいわけであります。

ただ、しかし高等学校につきましては県の教育機関でございますので、やはり学校自体がどうやってまとまっているのか、やっぱり教育委員会とどのような形でいくかというのが私は重要だと思っております。

それに対して、市もやはり一体となって動いていかなきゃいけない。我々の意向もかなり強いものがございしますが、それにはやはりその学校がしっかりと色を出して、海洋高校みたいなやつは、それに対しては我々は幅を超えても、何を差しおいてもやろうじゃないかというような気持ちになるわけですが、何もないと我々も動きようがない部分であるわけでございますので、その辺は学校のやはり主体性も私は大事にしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

市長、何のために0歳から18歳までの一貫教育を打ち出したんですか。そのもとになる部分については私も、今、市長がおっしゃるとおりのことで、地域が求める人材を地元の高校からつくってもらおう、教育してもらおう、それで中高連携だと、そういったことを強化すべきだと私も提案してきた。

今の市長のご答弁では、それらの実績が上がってないことになる。やはり私はそういった部分の時間も、危機感に立ってやる必要があるんですよ。だから何度も言いますが今回は学級維持、これに努めて、2年間の猶予期間の中で、そういったことをじっくり考えようではありませんか。

それから4番のほうに入っていきますけれど、糸魚川市には私立の高校がないんですよ。すると約1時間、富山県に行くか上越市へ行くか、そういう中の通学の不便さや保護者の負担増ということも、かなり著しくなるんですよ。これらについては、教育委員会は検討した結果はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

内部でいろいろ白嶺高校の定員が減った場合に、どうなるんだろうかというような話はさせていただきました。そして市長答弁にもあったように、保護者や生徒の負担増の可能性もあるだろうし、

+

それから地元への若者の定着、それから古畑議員も出しているように部活動への支障等も生まれるであろうと。さらに輪をかけていくと生徒数が減った場合、まちの活気がなくなっちゃうんじゃないかと、あるいは学校の活力がなくなっちゃうんじゃないかと、そういうようなところまで話し合いしました。

その後で学校全体というか、３年生の進路状況をきちんと確認させてもらいました。もちろん一貫教育の中で、１５の春に泣くような子供をつくりたくないというのが本音です。白嶺高校の進路状況を調べたら、６割が進学なんです、そして４割が就職なんです。そのうちの約４０人ほどが県内、市内ですかね、それからあと残りの１０人ほどが県外へ出て行っていると、こういう現実でした。

そういう分析をした上で、ひょっとしたら保護者、それから子供たちの進学に対する考え方も変わってくるんじゃないか。例えば私は入り口が大事じゃなくて、出口が大事であるっていう捉え方ができれば、大学へ進学する、あるいは短大へ進学する、専修学校へ進学するのであれば、できれば糸魚川高校のほうへシフトしていく。そういう考え方も生まれてくるのではないかなというような発想も教育委員会内部ではいたしました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○２０番（古畑浩一君）

過去のデータを見ると、今、教育長が言われた情報、方向性というものは、まだ立証されてませんよね。来年度の子供たちの意向というものは、ことしまでの意向では、そうじゃない結果が出てますよね。平成２７年度の糸魚川高校の倍率は０．８７倍、白嶺高校が０．９８倍、海洋高校が１．１倍。海洋高校がずば抜けて人気あるわけじゃないんですよ、これ。１クラス減らされたからです。１クラス多かったら、これもまた減ってる状態だ。それはだから厳しい状態はわかる。

それから白嶺高校を志望した生徒が、全体の募集の枠は４００人あるんですね、定数は４００人あります。その中において先ほども言いましたけども、来年度は３８３人ですから、定数論からいきや定数を下回るとるんです。ところが、じゃあ白嶺高校を志望した子が糸魚川高校へ行くか、２次募集で、その辺についてはどう分析します。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

定員が１倍に満たない場合は、２次募集をすることができることになっておりますが、学力の状況ですとかということを考えますと、白嶺高校を受験をして２次募集で糸魚川高校にということは、あまり実情としてはないように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20番（古畑浩一君）

市長、学力だけの問題じゃない。大学へ進学したいか、いや、自分は働きたい、または専門的な知識を身につけたい、さまざまな理由で子供たちは進路を選ぶんです。それに、もちろん教育委員会の人には釈迦に説法ですけど、2次募集を受ける権利というのは、どこの高校にも受かってない場合なんです。

白嶺高校の倍率が高くなるということになれば、当然、滑りどめで私立を受けますよね。私立が受ければ2次募集に回することはできません。どうやっても定数と卒業生だけでは、どれだけの余裕があるかを計算できないんです。したがって、私がここではじき出したのは、1クラス分というのは海洋高校等行けなかった子を含めて、約50人が地元の高校に定着できないんじゃないかという数字を割り出した。これいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

そういう捉え方もできるかもしれません。

ただ、これも新聞報道によりますと、県の教育委員会の言い分では市内の383人に対して高校定員、3校で400人が用意されておりますと。ただ、そこで私どもが疑問を持ちますのは、その383人のうちの毎年50人前後は市外の高校を受験されるということ。逆に市外の中学校から市内の高校3校へ、その倍ぐらいの人数の人が通って来るということでありまして、その差し引きが定員の中で食われていくとすると市内全体では、平成28年度においては30人ぐらいが影響を受ける人数かなというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20番（古畑浩一君）

30人のわけないね。何と言いましょうか、1クラス減った場合の想定でいけば。それから今言われるように、直江津や名立というところからも糸魚川へよく来ていただけてますよね、総合学科。上越総合技術高校だって倍率低いわけじゃないんですよ、1.3倍。ここを私も計算したら5カ年で大体1.3倍ぐらいあります。だから白嶺高校がだめなら、じゃあ上越総合技術高校へ行こうかなんていうわけにもいかん。やはり直江津や名立の子供たちの取り合いになってますよね。それを頭に入れておいていただきたいと思いますと思うんです。

それからこれはやっぱり、例えば先ほど田中議員もご質問されてましたけど、こういう苦情も来てました、今回の取材の中で。第三セクター鉄道以降後の通学に大変支障を来している。3両あった列車が2両になって、朝は混雑し過ぎて海洋高校の子供が遅刻した。帰りはさらに1両になって、ぎゅうぎゅう詰めで座ることもできないと、身動きができないという苦情が来とる。これについては、どのように緩和していくおつもりですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

先ほども田中議員のご質問にお答えしましたけども、混雑してることは間違いございません。

それについては、やはり緩和をする方向で増設なり、快速の時間変更なりというものを求めているというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

だから渡辺課長、そこら辺が何か人ごとみたいに聞こえるんですよ。いいですか。例えば現状においても乗り切れない子供たちがいる。また、乗れたとしてもぎゅうぎゅう詰めだ。そこに来年、また1クラス減った分で市外に流出する子供が入ったとしたら、さらなる混雑になりませんか。そこは想定してますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

今までの要望の中では、そこまでは想定はしておりませんです。それは決まったということではないというふうには思っておりますけども、その辺のところの状況も見の中で、やはり要望はしていかなければいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

市長、通学列車1本とっても準備できておりません。こういう現状もやっぱり県に伝えていただきたいんですよ。急に言われたって、こっちにも都合があるということをしっかり県に言ってほしい。

それから何か本当に残念なのは、どうも糸魚川市は、このまま黙って受け入れるんじゃないかということで、非常に地域に不安も広がってます。ただ、私の取材の中では県教委は、こうした学級減については地元が反対することは当たり前であり、地元の反発によっては方針変更もあり得るとの情報も入っているんですよ。そのいい例が、今回の上越総合技術高校ですよ。そういったことを教育長、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

上越総合技術高校の場合に、現状維持という形で方針が出されました。ただ、同じく県内を見て

いくと白根市の場合に、運動を起こして１年間だけ学級維持というような状況もありました。ただ、ことし見てみると、ことはもう１学級減ということで動き始めております。それも話は急であったということで聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○２０番（古畑浩一君）

すばらしいじゃないですか。それでも１年間の猶予期間を取ったんだ。やればいいんだよ、糸魚川市だって、本当に。

それから進路指導も決定して受験の準備になっている、この段階、受験生とその保護者の気持ちを全く無視した強引なやり方、これには大きな疑問を持ちます。あまりにも拙速で乱暴なやり方。これ学校や保護者には、どうやって説明していくんですか。私も取材してきましたけど、現場は混乱して、受験生にも動揺を与えてますよ。こういう姿があっていいんですか、教育委員会として、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

議員のご心配のとおりかと思えます。８月には進路に大きく関連をします、模擬試験のようなテストもございました。それも進路決定には大きく子供たち、また、保護者とも相談をしながら進路をこれから、その結果を見ながらそれを相談していくわけですが、今回の急な１学級減というところについては、非常に不安を持たれてる保護者の方もおられるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○２０番（古畑浩一君）

やっぱりこうした動きに対して、来年の受験生の保護者を中心とした中学校ＰＴＡによる、学級減に対する反対する署名運動が、現在、行われております。こういった活動について、どのように行政としては捉えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

ＰＴＡの自主的な取り組みだというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

金子部長、あまりにも血の通った答弁とは思えませんね。

金子部長、あなたが商工観光課長だったとき、私がPTAの役員やっとなるとき、わざわざ学校まで来て、子供たちに地元就職してくださいってお願いをして、その後、地元を希望する子供たちがふえた実績を上げた方じゃないですか。何ですか、それ。まあそういう団体の方が勝手にやってるんで、私たちは知りませんって聞こえるよ。市民の皆さんがせつながってるということですよ。市長にも、もう1回しっかりと要望していただきたいという思いで、今、動いているんじゃないですか。

先ほど私だけが決めたんじゃない、白嶺高校の同窓会長とPTA会長と決めた。そのときじゃあ来年受験する中学生の親御さんですとか、学校関係者とは意見は交わしてなかったということじゃないですか。何でもっと幅広く糸魚川全体の問題として考えて、多くの人の意見を聞いて県に対して要望に行かなかったんですか、どうなんですか。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

今、署名活動をされとるという話も聞いておりますが、それはまだ糸魚川中学校だけということで、やはり市内の中学校が、連携してるという状況ではないというのも私は情報で聞いとるんですが、やはりそういった意見を聞く、時間的に私たちも動いたときには、まずは白嶺高校の後援会とPTAの皆さんが来たわけでございまして、広く意見を聞くという場を持たなかったのは事実でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

市長、そのとおりなんです。3カ月という期間は、広く意見を聞く暇も与えないんですよ。あり得ませんって、これは絶対抗議ですよ。たとえこういうふうに、今後2カ年だけについては増加してるってようなデータがなかったとしても、わずか3カ月で決定する、猶予期間も反対する暇もない。糸魚川では反対する声も上げることができないんですかというせつない、何と言いましょるか、ご意見も私、伺ってます。やっぱり過去、上越総合技術高校や、先ほどお話があったように急な変更については、やはり私は抗議するべきだと、これもう何度も申し上げます。

市長、できなかった理由を今述べてましたけれど、私は逆にそういった声、署名が別に糸魚川中学校だけであったとしても、たとえ1人の親御さんの声であったとしても、それを県に伝える役目というのは、糸魚川の行政の長にはあるんじゃないですか。要望は行ったけれど、さらにこういう要望があります、こういう署名が集まりました、県教育委員会といたしましてもご一考をいただきたい。それをやるのが行政の長じゃないですか、糸魚川のトップじゃないんですか。単に1中学

校だけがやっでることだ広がりがなかつて、それは理由にならないと思いますけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々も聞いている1つの情動的には、聞いているのと、また今、我々が実際に調べたのと多少違うわけでありまふので、その辺についてもやはり説明をしっかりとらわなくちゃいけないとは思っております。

そういった形で我々は県の教育委員会と、まだはっきりと知らせるところも必要だと思っておりますし、今、そういった活動があるのも承知しとるわけでありまふが、しかし、その進め方等についても問題もあるというようなことで、またご指摘もいただいてる部分もあります。しかし、結果的には内容よりも、そういった1つの考え方だろつと思つとるわけでありまふので、そういったところをまた県のほうにも申し入れして、進めていきたいとは思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

やはりより多くの市民の声、あらゆる部分で出る言葉、切実な言葉、やっぱりそういうのを真摯に受けとめて、行政の長として、しっかりと県のほうに私は伝えていただきたい。もちろん、今のご答弁で伝えていくというご答弁でありましたから、私はそれでいいと思いますけれど、やっぱりしっかりとした耳をやっぱり開いて考えていただきたい。

それから地方創生の戦略プランや人口ビジョン、この間、発表されました総合戦略の素案、この中にも地元定着支援だとか、やはり若者支援、教育環境の充実といった項目もあります。この辺に書いてあることが絵に描いた餅にならないように、今、やっぱり1人でも子供たちを外に出さないような努力。特に学級減をなるべく前に、先に送って、何とか地元でふるさと愛、また、地元の企業等に必要とされる人材をやっぱり育てて地元に残っていただけるかと。それをやっぱりこういう戦略の中で、私は実現する必要があると思いますが、これはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その地方創生、今、総合戦略を作成する前から、私はやはりそういった意味では危機感を感じておりました。しかし、地域に学校は絶対に必要だという形の中で、そういう活動をさせてもらってきました。それをさらに、今、議員ご指摘の方向もあるでしょうし、我々も提案した方向性もあるでしょうし、それはやはりこの生徒たちの考え方、そしてまた最近の動向を見ながら、魅力をどう

+

やってつくっていくかというのは、早急に立ち上げてもらいたいなと思ってますし、それに対してやはり精いっぱい、県の関係する高校であっても協力していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これは市長、二者択一の選択じゃないですよ。学級維持を求め、それでだめだとしても魅力ある学校づくり、これはやっぱりずっと1つのテーマですからね。ただ、降って湧いた今回のことに対しては、糸魚川の長として市民の声をやっぱり伝えていただいて、あまりにも急過ぎますということとを、やっぱりしっかり伝えていただきたい。

次の項目にちょっといきたいけど、気になるのが11番、一連の不祥事や学級給食の異物混入など、危機管理能力に疑問を持つが大丈夫なのかということなんですけど、これまた新たな異物混入事件、ございませんでしたか、給食の。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

2学期に入りまして糸魚川東小学校において、毛髪が御飯の中から見つかったという事案だとか、それから「Aひすい」のほうで炊いている糸魚川中学校、糸魚川小学校、大和川小学校の米の中に、精米機を掃除したときに出了た塗装膜みたいなものが米の中に散らばってしましまして、それが取り除き切れなかったということで、急遽、御飯の炊き直しをして配達がおくれたと。給食の時間が小学校で1時間、中学校で2時間おくれたという事案も発生いたしました。この点については、また次回、今総務文教常任委員会の中で、詳細に報告をさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これで通算何回目で、その期間というのは最初から今回までどのくらいあるわけですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

最初が5月の下旬ぐらいから

○20番（古畑浩一君）

26日。

○教育次長（竹之内 豊君）

失礼しました。5月26日から以降であります。

総合計の件数については、すみません、ちょっと今、資料を持ってきておりませんので、申しわけございません。

○ 20 番（古畑浩一君）

議長、暫時休憩願います。

○議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

午後 2 時 57 分 休憩

午後 3 時 00 分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

白嶺高校の学級減と人口対策についての資料は一通り用意してきましたが、その中にありました給食の異物混入、これの資料を手元に用意してこなかったことにつきまして、混乱させましたことを大変おわび申し上げます。

学校給食の異物混入であります。1 学期につきましては、糸魚川中学校で 1 件、青海中学校で 6 件、磯部小学校 1 件、大和川小学校 1 件の 1 学期では 9 件。それから 2 学期に入りまして、米飯給食の遅延が 1 件、それから東小学校における異物の混入が 3 件、2 学期に入りまして 4 件、計 13 件とアレルギーによる事故が 1 件、以上 14 件であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20 番（古畑浩一君）

多発するというか、連発すると言いますか、多過ぎですね。その間、再発防止に対して、どのようなことを指導されておられましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

それぞれの事案ごとに、その異物が何であるか。それから混入の経路が、こういった経路で混入したかというものを調査をし、それぞれの考えられる経路ごとに対策を立て、その対策を実行するよう周知してまいりました。また、同種の事案が他の学校で同じようなことが発生しないように校長を通じたり、それから調理員の研修会で指導したりということで対策をとってまいりました。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

教育長、その対策は功を奏しておるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

実際に指導後も案件が起きてしまったということから考えていくと、対策が万全ではなかったということは言えるかと思います。今後、ますます力を入れて対策に取り組んでいきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これ問われるべきは責任の所在です。何度も言ってきましたけど、1個、1個とればたわいのないことでも、これだけ連発するとゆゆしき事態ですよ。再発防止も言ってきましたけど効果がない、この責任はどなたがとられるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

実際に教育現場で起きている事柄ですから、最高責任者の私にあると思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

私もそう思います。ただ、今までは個々の分野での責任であるという答弁であったけども、今、教育長たる私の責任であるとはっきり申し上げた。だったら私は教育長として、しっかりと私は陳謝すべきだと思うんですよ。今回の一番最近のものは、私が通告書を出した後なんですよ。まさかこんなにまた新学期早々出ると思わなかった、4件も。それについては陳謝すべきじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

7月25日に調理員等に対する指導を行ったんですが、残念ながらまたこのような件が4件続いてしまったということで、教育長として非常に責任を感じております。本当に申しわけありませんでした。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

そこから始まらないと何事も進まないと思います。

この件については、今後、総務文教常任委員会できっちりとやるそうなので、そちらのほうで、またしっかりとやっていただきたい。

市長、この件についてコメントいただきたい。1つは、もうちょっとゆゆしき事態ですし、アレルギーによって子供の命まで危ぶまれる結果になった。その後、やっぱり返し方等に、私、問題あったと思うんですけどね。市長、教育の現場の最高長は教育長ですけど、やはり行政の長としての市長、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々は0歳から18歳までの一貫教育という捉え方は、やはり子供は市の宝というつもりで進めてまいっておるわけであります。その子供たちに本当に異物を混入する給食を出したということは、非常に責任を感じておる次第であります。

私もその改善策、また、その対応を見させてもらう中で、これで大丈夫かなという気持ちもあつたんですが、また図らずもこういう形になったということで、非常に責任を感じております。私からも、やはりその辺の対策をしっかり自分自身もとっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。失礼しました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

やっぱり危機管理能力を発揮していただきたい。最近、ちょっとやっぱりおかしいですね。長としてしっかりお願いいたします。

最後になりますが、糸魚川白嶺高校に対する唐突な学級減、受験生だけの問題ではなく、人口問題にあえぐ糸魚川市として大きな問題として捉えるべきです。ぜひ白嶺高校に対する学級減、方針発表からわずか3カ月で決定するという、反対する暇も与えない早急なるもので、とても計画行政と呼べるものではありません。

糸魚川を担う子供たちの未来のために、糸魚川市を守るために、郷土を担う人材を確保するため

+

白嶺高校の学級維持、いま一度、新潟県に強く要望していただきますよう心からお願いして、質問を終わります。

○議長（倉又 稔君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩をします。

再開を午後３時２０分といたします。

午後３時０７分 休憩

午後３時２０分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。〔６番 保坂 悟君登壇〕

○６番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき１回目の質問を行います。

１、０歳から１８歳の一貫教育を推進する系魚川市による市内県立高校の魅力づくり側面支援について。

(１) 系魚川高校の魅力づくりについて。

人口減少問題は大学存続の上で大きな課題であります。そこで、一番近い上越教育大学と連携し、（準）附属高校化を目指してはどうか。

進路別学習支援制度を設けてはどうか。